

平成12年度第2回入札等監理委員会会議録

1 開催月日

平成12年9月12日(火) PM2:00からPM4:50

2 開催場所

北海道庁3階知事会議室

3 出席者

委員：藤井委員長、金井委員、伊藤委員、梶井委員、株丹委員、
磯田委員、中谷委員

北海道：跡部入札指導監察監、西澤農政部技監、
梶本水産林務部技監、天谷建設部技監、辻建設部建築整備室長

4 議事

- (1) 開会
- (2) 報告事項
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

5 発言要旨

【開会】

報告事項について、入札指導監察監から報告願います。

【報告事項】

第1回の委員会以降に改正された通達の主なものについて説明する。

ランダム・カット式指名競争入札が本格実施に移行した。

試行との違いは、特別の事情がある場合には、ランダム・カット式指名選考を実施しないこととしたほか、指名候補者数を無理に確保することを避けるため適切な選考を行った結果として、指名候補者数が予定数の1.5倍を下回ってもやむを得ないこととした。

指名基準が改正され、選考過程を公表することも含めた。

指名停止措置について、贈収賄あるいは独占禁止法違反行為等に関する指名停止期間を強化しました。

各部門別の5部門の本年度7月までの入札形態別の入札実施状況について記載しており、速報値と考えている。

(事後点検調査結果報告：各委員)

(伊藤委員)

事後点検の印象は、行動計画自体については、内容が現場まで周知徹底をされてはいたが、現場によって、この問題に取り組む温度差があるのではないかという印象があった。

長年身についた制度の変革に対する心理的な抵抗や戸惑い、さらには、事務量の負担、職員の様々な負担増について、現場で意見を聞きました。

制度を変更して、今後様々な混乱が予測されるという危惧感や心配が先立ち、積極的な形に、意識が行かないのではないかという印象を受けました。

今後各種の基盤整備が、必要ではないかと考えた。

一つには、職員の方々の意識いかに前向きの方に持って行くかという点。バックアップ体制をフォローできる仕組みが整っているかという点です。

もう一つは、業者の方々の情報、企業情報が発注者毎に分かれており、情報がそれぞれバラバラで、それぞれが共用できない、その中に盛り込む情報自体も統一されていない。

元々地方では業者数が少ないため、ある一つの基準を当てはめると、そこで一気に基準より少ない数になってしまうという話も聞きましたので、選考基準のあてはめの検討も多少必要かという気がしました。

地域限定型や簡易公募型の選択の幅をもう少し広げて、現地において柔軟に方式を選択できるような形で、地域に応じた流動的な方式、相互間の考え方を取った方が良いのではないかという印象でした。

(梶井委員)

客観的な恣意性のない制度の運用については、大丈夫であろうという印象を受けました。

職員の方々と意見交換では、行動計画の理念については、十分理解したと言っているが、実行する段階になると漠然とした危惧感、不安感はどうしても拭い切れないということでした。

改革に対する意識の問題の持ち方ですけれども、部署によって濃淡があると感じました。

今回の改革は、全庁が同レベルの高さに立って、一枚岩で改革を進めなければ意味がないと認識しておりますので、同じ温度差のない形で、同じ意識の高さで、今回の改革は徹底させていただかなければ、数年後多分、不徹底で温度が低かった部署からまた問題が出て、あの時の改革は一体何だったのかということになるのではないかと思います。

今までの地場産業の育成ということの考え方が、少し偏っていたのではないかと思います。地場産業の育成といいますが公共事業だけではないわけでありまして、いろいろなやり方があるのではないかと思います。

特定の業界とか従来のやり方に固執しないで、地域全体の活性化、さらには北海道全体の活性化という視点から、多様な取り組みが検討されるべきではないかと意見交換しました。

何分にも改革はまだ途上段階でございますので、これからも根気強く、道民のためになるような仕組みを築いていかなければならないということで、職員の皆さんとも確認し合ったと思っております。

(金井委員)

行動計画のパーセンテージが、プレッシャーになっているように感じられました。

仕事量の負担増に関しては、これまでのデータ不足と裏腹の関係にあり、地域活性化といわれながら、これほどデータが作られていないで、どのように地域活性化をするのかと逆に不思議に思われました。

いずれにしても、データベースは、今後地域活性化などのいろいろなことを考える上で、非常に重要なので、早急に行うべきだと思います。

将来起こり得るだろうという不安感が、現実的としてあります。

ランダム・カットの意味が、まだまだいろいろな考え方があって、混乱があると思います。これはあくまでも透明性を確保するため、緊急措置的なものということを出てきたもとを考えます。

我々が考えておくべきことは、ランダム・カットで、運のいい企業が残るのではなくて、少なくともいい企業がどうやって残るかという制度に向けてどう考えていくのかということが、重要な問題となると思います。

もう一つは、質をどうやって情報化するかを考えていかなければならないことで、データベースを考える時にポイントかと考えます。

もう一つ、多様な入札方法を行う時のシナリオ作りが、必ずしも地域でできていないと感じがしました。

(中谷委員)

ランダム・カットの本格実施に向けて、どうやるかを中心に、これまでの検討経過をもとに説明を行いました。

何故ランダム・カットが必要なのか、何故行動計画が出されたのか、しっかり意識されていないことなどが、本庁と現地の取り組みの温度差になっていると感じました。問題があったところは、行動計画を理解して積極的であります。

知事が上意下達みたいに関心を持って聞く耳を持たないという話題もありましたが、そうではないという話もしました。

(磯田委員)

委員会の方々が、支庁、土現の職員と接点を持ち、様々な意見を聞いていただき、生の声で語りかけていただいたことは、非常に大きなことであると思います。

地場産業の育成、事務量の問題、情報の集積などいろいろな問題が出てきておりますので、これからやるべきことがたくさんあるという印象でした。

職員と話をしていて思いましたことは、今、道が、道職員が何が問われているのかという原点を忘れてはいけないという印象があります。

その所属所属の幹部職員の一言一言が、大きな影響を与えるという印象があります。ですから幹部職員が何を語りかけていくのかをこれからもしっかりしていただかなければならないと思うし、各支庁、土現で自主的に所属長を中心にさらにいろいろな検討や研究をし、職員の生の声を吸い上げて、よりよいものに改善していくような仕組みや場が必要であると感じました。

情報は共有して、発想は個別にあるいはその地域らしく、ということをやってもらいたいと思い議論をしてきましたが、地域ならではのやり方も是非やってもらいたいという発想が少し乏しいかと感じました。

(株丹委員)

事後点検については、きちんと見させていただいて、おおむね適正であったと思いますが、本当に不正や不適正なことが行われていたかを、どこを見ればわかるのかの確立した手法を持っていない点が気になっております。

2点目は、もう少し行動計画を作るまでのいろいろな情報や議論が、現場に伝わることを工夫すべきであったかということでもあります。

ランダム・カットの本格実施の時には、どういう場合にはランダム・カットをはずしておかしくないか、1.5というのを守る場合、守らない場合ということが気になりましたが、一方でそれを強く出しすぎると、モチベーションが下がることになるかと思いました。

逆に、今の状態は温度差は非常にあるが、やり方をもう少し工夫しないと、全部モチベーションが下がってしまうのかとも思いました。

中央で決めなければならないものと自由であってしかるべきものとを区分けできれば良いと思いますが、まだ整理できないところがあります。

今回の改正は、指名は残しましたが、その中にランダムな選択や競争を厳しくする、客観性を高めることですから、今までのように道側が優位性を持って業者を選ぶということがだいぶ薄れてくる。優位性がなくなることによって、今までは顕在化していなかった問題が表面化してくる。

これは、あってはならないということではなくて、きちんと受ける制度を作らなければなりません。

選定基準を見ると、発想の中で平等に扱うという意識が強いのかと思いました。良い業者が残って、悪い業者が落ちるような方向性を出して行かなければならないのですが、そこに課題があるのかと思いました。

(跡部入札指導監察監)

委員会の点検を補完のための点検を行っております。

美深道有林管理センターは、隣接の支庁や道有林管理センターの類似工事を行っている業者を調査してまいりました。特に地域限定型一般競争入札の地域の対象を拡大し、適正な入札に心がけるといった姿勢が感じられてました。

浦幌道有林管理センターは、指名基準の改正後における指名競争入札を実施していませんが、センターとして業者選定に当たって、具体的に客観性なり公平性なりをどのように生かすかということを工夫していることは相当感じました。

【意見交換の概要】

1 第1回入札等監理委員会保留分の報告質疑の概略

- ・ 建設業法に基づく経営事項審査は、公共工事に入札参加を希望する業者を対象としているため、民間工事を中心とした業者の経営内容を把握することは困難。
- ・ 建設業は、外で行う単品受注生産であること、異なる企業による共同作業であること、工事時期・工事量を予め見越すことが困難であることなどから、生産管理や経営管理が企業によって一様でなく、特殊で複雑な作業形態を有していることから、短期・長期の業者育成の目標設定については一概に論ずることが難しい。
- ・ 道としては、「建設産業構造改善推進フォーラム」、「建設業トップセミナー」や「建設業経営支援診断指導事業」を実施することにより、企業体質の改善を図っている。
- ・ 今後の国及び地方の財政状況をみると、非常に厳しい時期を迎えることが予測されるため、建設投資の低迷が避けられない状況にあり、「北海道建設業振興アクションプログラム」の推進に努めている。

土木関係業者は、公共事業が減って行くため、経営の安定を図るためには多角化を考えなければならない。また、協業化・連携を具体的に進める方法として、具体的に技術開発を進める方法を考えないといけないと思う。技術開発のための場づくりをやっていただきたい。

2 発注3部を入れたデータベース化の概略

(委員長)

適切な指名選考をしていく場合のデータについてですが、これまで発注3部の独自のデータで指名選考が行われている状況も見受けられたのですが、それらのある程度データベース化し、発注3部が相互に共有出来るようなシステムについて、発注3部の方から意見を聞きたいと思います。

(建設部)

指名委員会は、委員会の形式に基づいて行われております。現在は、個々の情報により選考していますが、発注3部で共有できる情報の種類を検討し、

データベース化することは、結構なことと思います。

(農政部)

以前は、データが足りなかったと考えております。

農政部としては、データ作りの取り組みを行ってまいりました。

データは、日常の管理が伴い大変な作業になりますけれども、対外的に説明するために、やらなければならないと思います。

ただ、発注3部共通なもの、各部の独自のものがありますので、これがうまく利用できるようなシステムが出来れば良いと思います。

(水産林務部)

前年度の業者別の受注実績や工事成績は、データを持ってありますが、今年の発注データや工事成績が、業者を選考する際の重要な部分でもありますので、使用目的に応じて、どういう項目をデータベース化するかを検討し、発注機関が共有できるものを作らなければならないと考えます。

(建設部(建築整備室))

監督員と検査員両方で評価しまして、データとして管理していますが、実際の指名の中ではそれを現実として活用していない状況であり、今後、成績評価などをもう一度詰めていかなければならないと思います。

工事の成果品の適正に評価することが重要となってくると考えます。

主観的に行ってきたことを公開することによって客観化されるという努力もしなければならぬ。

経験に基づいた主観的な判断を何らかの形で見えるようにすべきと思います。

3 委員による意見交換

(委員長)

今の段階である程度、中間報告をすべきかどうかという点について、御議論いただきたいと思います。

データベースとなりますと、予算も関連してくる話でありまして、来年の3月ごろの意見の具申ですと、タイミングを失するわけでありまして。

いま結論が出ないということであれば、個別に事務局からお伺いをしまして、先生方の御議論もう少し整理してみたいと思っております。

どういうデータがあれば指名のものになるかというのが、現実として、リアリティとして湧きません。

(委員長)

何を共有化するのか、どこまでやるのか、現状でいいものを、安いコストで済むものを、無駄なことをする必要はないわけで、仮に創るとしてもどの程度のものになるのか。そこらへんの評価というのはこれからですが、検討を命ずるように提言するということはどうでしょうか。

必要性には全然異論ないんですけど、どういう具体的なことをやれば客観性が出てくるのかなということに関して、まだちょっと見えない。

これまでの議論の中で、現在の仕事の中でデータベースが必要だというのはこの委員会の中で一致していると思う。

具体的な内容をどう盛り込むかは別にしまして、こういうものを早急に検討すべきという点では、出してもいいのではないかと考えます。

それぞれデータベースに係わっている人たちは異常なほど孤独にやっている感じがします。

他がどうやっているか知りたい。そういう方たちが集まって出し合えばいいと思います。

組織として出来ないシステムなのか分からりませんが、縦割りの弊害が出ているなという感じがします。

データベース化については、ワーキンググループみたいな形で発注三部から人を出して、項目別の数値の入れ方を検討すべきかと思います。

(委員長)

事務的に整理し、委員にも個別に相談してもらいたいと思います。今日はこの辺で。長時間ありがとうございました。